

藍サポ通信～明日に向かって～に掲載されている写真は、本人又は保護者の同意を得て掲載しています。

生活介護藍(本館)では、創作活動で季節にちなんだ創作物を作り、毎月ショーウィンドウで展示しています。地域の方々がショーウィンドウの前で足を止めて見てくださり、お散歩中の保育園児や保育士さんから「これが好き!」「この前を通るのが楽しみなんです」等、声をかけていただくことも多いです。

創作活動の時間は毎週一回あり、創



※2面に続く

てるてる坊主は、ビニールと画用紙等で、制作しました。

物物を作っています。どの色を使うか、どの素材を使うか利用者さんに見て選んでもらったり、一緒に相談しながら創作しています。

作成中、利用者さんたちは楽しそう

にニコニコしながらも、集中して取り組まれています。そして、タコみたいなてるてる坊主や、手が生えているだるま等、毎回オリジナリティ溢れる作品が出来上がります。

完成した後はみんなの前でどこがポイントか、テーマは何かなど、作品に込めた思いや注目してほしいポイントなどを発表し、「ここが素敵だと思う！」と感想を言い合いながら盛り上がります。

今年度も作品の展示を行なう予定です。お立ち寄りの際には是非ご覧ください。



折り紙で作ったぶどうで、ぶどう棚を作りトイレットペーパーの芯の人形とあわせ、【ぶどう狩りをするみんな】がテーマです。



松ぼっくりをクリスマスツリーに見立てて、ビーズなどを使い装飾したスノードーム。



くれよんへ行く際、また自宅へ帰る際は車での送迎があるのですが、くれよんに通う子どもたちの中には、徒歩や自転車、公共交通機関を利用して自分の力で通っている子どもたちもいます。以前は、長期休暇だけと決めて挑戦してみなお子さんが多かった印象ですが、4月になり学年が上

自力通所
頑張ってます！
(くれよん)

がったことで、以前よりも自信がついたり、挑戦してみたい気持ちが強くなったように、「自分で行ってみたい！」というお子さんが増えました。家族・職員との相談から始まり、交通ルールやルートの確認・練習を重ねて見事自力デビューを果たすことが出来る」と「実際に自分の力でけるんだ！」とさらに自信がついた印象です。

出発前と帰宅後は、自分自身の安全確認を伝える意味も含めて、「今から行きます。」や「今から帰ります。」と、くれよんと家族に電話連絡やメッセージで伝える約束をしています。時々忘れてしまうこともまだあるようですが、後から職員が連絡をした際に心配な旨を伝えるとハツとする様子もあり、自分で誰かに連絡することも子どもたちにとっては練習になっているようです。なぜ連絡をするのかに自分で気がつけば、連絡することが習慣化していくのでは



ないかなと感じながら、今後も見守っていききたいと思えます。

イベント

盛りだくさん！

生活介護 藍(南館)

生活介護 藍(南館)では、地域で開催しているイベントに参加したり、事業所でイベントを開催しています。前回はNHKホールで開催された朝ドラのセットを見に行ったり、地域が開催しているバザーに参加するなど、地域との交流も図っています。今回は4月・5月にあったイベントの中から



ケーナを吹くペルーの音楽家

ら抜粋し紹介していきます。

4月15日アリオ八尾ににかけて「ラテンフォルクローレライブ」というペルーの音楽家の演奏を見に行きました。あまり馴染みのない民謡でしたが皆さん音楽のリズムに合わせて身体を揺らしたり手拍子したりと楽しそうに参加していました。同月26日には「MINDING DRIVE」というイケメン揃いの韓国アイドルのミニライブイベントがあり、韓国アイドルを見た皆さんは「見れてよかったわ〜」と満足そうにとっても喜んでいました。

5月18日、東住吉高校で体育祭が開催されていた当日の朝、外の清掃活動で高校の前を通り中を覗くと「入って見ていってください。」と優しく声をかけて下さりました。校庭には学生たちが4チームほどに分かれ、手作りしたであろうそれぞれの飾りを掲げ、大縄跳びやリレーなど全力で体育祭を楽しむ学生の姿を間近でみる事が出来ました。お出かけでは他にも男性ボーカルユニットのミニライブや、毎年恒例のお花見にも出かけています。また、事業所内での取り組みとして「HOA



ペルーの音楽を楽しまれています♪

LOHA」というフラダンスサーがボランティアで来所して下さりダンスを披露しに来てくださいました。また、職員によるギターコンサートが開催されたりと4月と5月の間にたくさんイベントを楽しむことが事が出来ました。

ヘルパー日誌

く今年もやってくる

毎年7月になると平野区では杭全まつりが開催されます。今年もだんじりの準備や、

街中に提灯が飾り付けされている様子を見ると祭りが近いと感じている方も多いと思います。私の場合は、祭りの季節が近いことをとある利用者さんから気付かされるのが毎年恒例となっています。毎週その方の入浴支援を担当させてもらっていて、いつもは入浴後にパソコンで電車の動画を見ながら過ごされているのですが、杭全祭りが近づくとパソコンの画面が急にだんじりの動画に変わるんです。動画をみながら体を左右に揺らしてウキウキした様子で楽しまれています。一度祭り気分になると翌週もその次の週もだんじりの動画になっていて、最後には杭全祭りだけではなく、岸和田のだんじり祭りや、天神祭りなどの動画も流れるようになります。リズムの良い太鼓の音を聞く度にパソコンの動画みながら体を揺らして楽しんでいる利用者さんの後姿が頭の中に出てきます。今年も祭りがやってきましたね。

第一回

利用者作品展開催

…に至るまで。

令和6年6月10日〜29日の期間、生活介護藍（本館）にあるショーウィンドウを使って利用者作品展を開催しました。事業所を移転した当初からショーウィンドウの使い方について話し合いを重ねてきており、ようやく一つの企画を実現することができました。ただ、実現に至るまでには検討、調整の繰り返し。今回はそんな作品展が開催されるまでの経緯を記事にさせて頂きます。

立ち上げは令和5年11月の広報委員会。最初に取り掛かったのは開催時期と、作品展のテーマでした。生活介護、放課後等デイサービスの一年間の予定を考えた時に制作活動に時間を十分に使える時期はいつかと考え6月であれば新しい体制が落ち着き始め、

気候的にも良いかと思いい6月開催を決めました。

テーマは「笑顔」。作品展に共通のテーマを設定することとなり、それぞれの事業所から意見を集約。私自身も複数のテーマを準備して会議に臨みました。初めに私が考えてきたテーマを発表するも他の委員の反応はいまひとつで、決め手に欠ける案となつてしまったのですが、他の委員から提案された「笑顔」というワードを聞いた瞬間に心のなかにあつたもやもやとした気持ちがあつたかと洗い流され、これが良いと強く思つてしまひ、私が強くおしてしまつたところもありましたが、第一回作品展のテーマ「笑顔」で落ち着きました。

最大の山場が登場。それはどんな作品を、どれぐらい出展させるのが最大の課題でした。展示スペースには限りがあり、せつかく作つても展示できないければ意味がない。逆に出展数が少なければ寂し

い作品展になってしまう。初めての試みで誰も見通しがつまず、みんなで悩みました。正解がわからないまま結局、まずはやってみようと思ひ直り、生活介護藍（本館）と（南館）にくれよんを加えた3事業所からそれぞれ共同作品として一作品を出展することを決断しました。この時点で令和6年3月。間に合うのかと不安にもなりましたが、あとは突つ走つて成功させるのと思ひ込み準備を続けていきました。

令和6年5月。各事業所で作品作りが進む中、作品展の開催期間を22日から30日まで延長する案ができました。良い作品ができてきたこともあり、反対意見はなく、すぐに開催延長が決定。広報委員以外のスタッフからも延長案には前向きな意見がでていました。丁度このころだったのでしようか、事業所が作品展の空気に染まってきたように思ひます。くれよんの子ども

達も材料選びや、色塗り作業などあわただしくも楽しんでいく様子が見られるようになっていきました。

令和6年6月8日。作品の展示準備を開始。各事業所による準備が進むとショーウィンドウの様子がみるみる変わっていき、作品展らしくなってきました。最後に作品展開催のお知らせを貼り準備は完了。やつて良かったと思う瞬間でもあります。

令和6年6月10日。ショーウィンドウのシャッターが「ガー」と音をたてながら上が

り、無事に作品展開催を迎えることができました。作品展を見に来て頂いた皆様ありがとうございました。今回は当法人の事業所を利用されている方々が作成した作品展でしたが、今後は地域の方々にもショーウィンドウを開放することも考えており、書道教室に通う子どもたちの書を発表したい、自分で作つた鉄道模型を飾りたいなど展示希望がありましたら無償で場所を提供させて頂きますので一度連絡をください。

